

## 血小板凝集能に及ぼす茶カテキンおよび緑茶直接摂取の影響

<sup>1</sup>東京家政学院短大、<sup>2</sup>磯子中央病院 ○桑野和民<sup>1</sup>、佐藤幸子<sup>2</sup>、鈴木淳子<sup>1</sup>、三田村敏男<sup>1</sup>

【目的】 茶カテキンによる血小板凝集抑制作用については、並木ら、安田らにより確認されており、平出らによる疫学調査の結果、すなわち、緑茶多飲地区は脳卒中による死亡率が低いという結果と良く一致している。

今回は、これらの結果を基に、茶カテキンによる同作用を、惹起物質としてADPを使用し、グレーディングカーブ・閾値(ESP)により確認すると共に、緑茶直接摂取によるヒト血小板凝集抑制作用への影響を検討した。

【方法】 凝固阻止剤としてクエン酸ナトリウムを用いた静脈血から、多血小板血漿(PRP)および乏血小板血漿(PPP)を調製し、メバニクス社の血小板凝集能測定装置PAC-8Sを用いて、ESP等を測定した。測定時に、茶カテキン(太陽化学製サンフェノン)を添加し、凝集能への影響を確認した。朝食と共に緑茶(山英製たべるチャ)6gを摂取させ、食後1および3時間後における凝集能を、朝食前のそれと比較した。

【結果】 茶カテキンの血小板凝集に対する抑制は、並木らの報告と同様、0.02mg/mlで認められた。また、濃度依存も確認され、高濃度程強い抑制が観察された。

緑茶の直接摂取による影響は、摂取1時間後では *in vitro* の試験で0.02mg/mlのカテキンで得られた凝集抑制能より強く抑制された。3時間後に於いても、1時間後よりは低下したが、その効果は続いていた。

以上のことから、緑茶の直接摂取でカテキンは、血小板凝集を抑制できる濃度にまで、吸収されていると推察でき、血栓の形成を予防可能であると考えられた。また、茶カテキンの摂取(茶の飲用)も本効果は期待できることも示唆された。